

(別表) 選考基準

審査項目	審査内容
1. 申請者の事業方針と事業関連性	申請者のコンセプト、業務内容等が業務目的の達成に適しているか。
2. 導入ツールの紹介 ①発音・アクセント練習	ネイティブスピーカーの発音がクリアに聞けるか。(リスニング)
	どの程度発音機会が設けられているか。(スピーキング) 児童が楽しく発音練習できる動画になっているか。(スピーキング)
3. 導入ツールの紹介 ②語彙学習	収録されている英単語の種類や数は妥当か。
	ライティングの練習ができるか。
	単語のスペル、複数形、関連語、例文などを、様々な角度から学習できるコンテンツであるか。 記憶に残りやすい工夫がされているか。
4. 導入ツールの紹介 ③基本的な文法学習	疑問文、肯定文、否定文など、基本的な文型を、アニメーションやイラストで分かりやすく解説されているか。 ゲームやクイズ等を通して楽しく理解を深める仕組みがあるか。
5. 導入ツールの紹介 ④教材コンテンツ	【デザイン性】全体のデザインがカラフルで楽しいデザインか。
	【コンテンツ力】ゲームや歌など、児童が継続しやすいコンテンツを豊富にそろえているか。
	【安全性】児童が不適切なコンテンツを閲覧・アクセスできないようにできているか。
	【応用力】最新の学習指導要領に合わせたコンテンツや、地元名産・名物など児童にとって身近なものを英語で触れることができるようなコンテンツなど、柔軟にコンテンツを制作・変更することが可能なこと。
6. 導入ツールの紹介 ⑤インタラクティブな学習	簡易で感覚的に操作しやすく、素早く再生が可能な仕組みであること。 教職員が児童の取り組み状況を確認し、状況に応じた操作が可能なこと
7. 経費	事業の積算に係る単価や経費が妥当であり、業務の提案内容と整合性が取れているか。